

秋どりブロッコリーの長期どり栽培法

球磨農業研究指導所 作物部(現、農研センター球磨農業研究所)

研究のねらい

ブロッコリーの頂・側花らい(蕾)兼用種では頂花らい収穫後、側花らいまで収穫する長期どりが可能であるが、側花らいについては放任された栽培が多く、品質が悪い。そこで、側花らいの上物収量を向上させる栽培法の検討を行った。

研究の成果

1. 側花らいは放任すると12本程度発生するが、これを2本に制限することによって肥大が促進され品質が向上する。
2. 側花らいを制限する時期は頂花らいが出らいする前がよく、株元付近の勢いのよいものを2本残す。また、頂花らい収穫時にその直下の茎を側花らいの発生している位置の2葉上から切り返すと、その後の側花らいの発生を抑えるため、残した側花らいの肥大がよくなる。
3. 栽植株数は、花らいの締まり、緑色度、花らい重量等からしてa当り333～277株が適当である。
4. 追肥は土寄せ・除草を兼ね、定植後2週間頃、頂花らい出らい時、及び頂花らい収穫直後の3回に分けて施す。頂花らい収穫直後の追肥は側花らいの肥大効果が大きい。
5. 秋どり栽培では、9月までコナガ、ハスモンヨトウ、アオムシ及び軟腐病等の発生が多いので防除を徹底する。

表 栽培の概要

7月20日播種、8月16日定植
 頂花らい10月下旬～11月上旬収穫
 側花らい11月中～下旬収穫

施肥量	窒素	リン酸	カリ
基肥	1.5～2.0	3.0～3.5	1.5～2.0
追肥	1.5～2.0	0	1.5～2.0

(kg/a)

(凡例)
■ 上物収量 頂花らい重
■ 下物収量 側花らい重

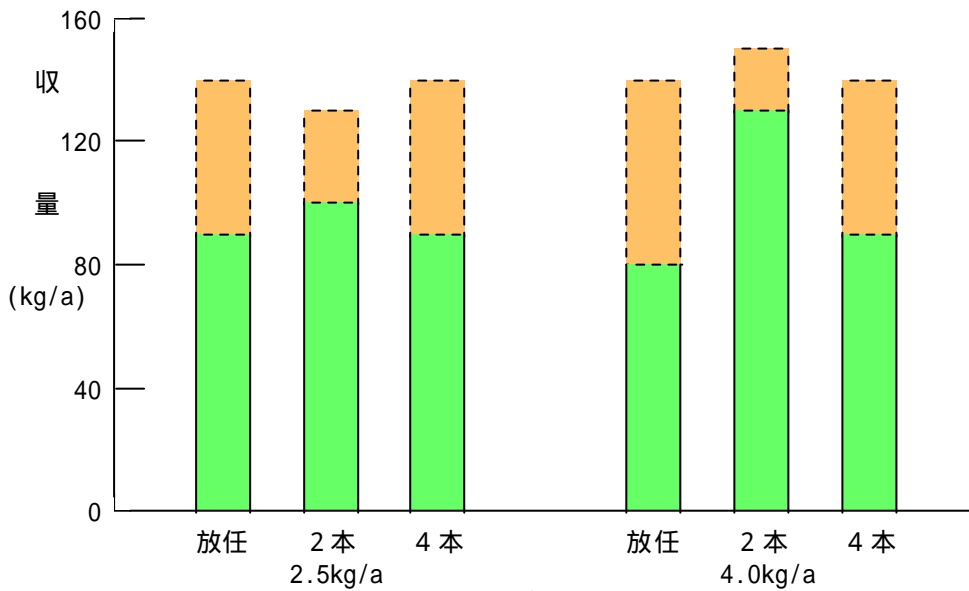


図2 側花らい数、窒素施用量と収量

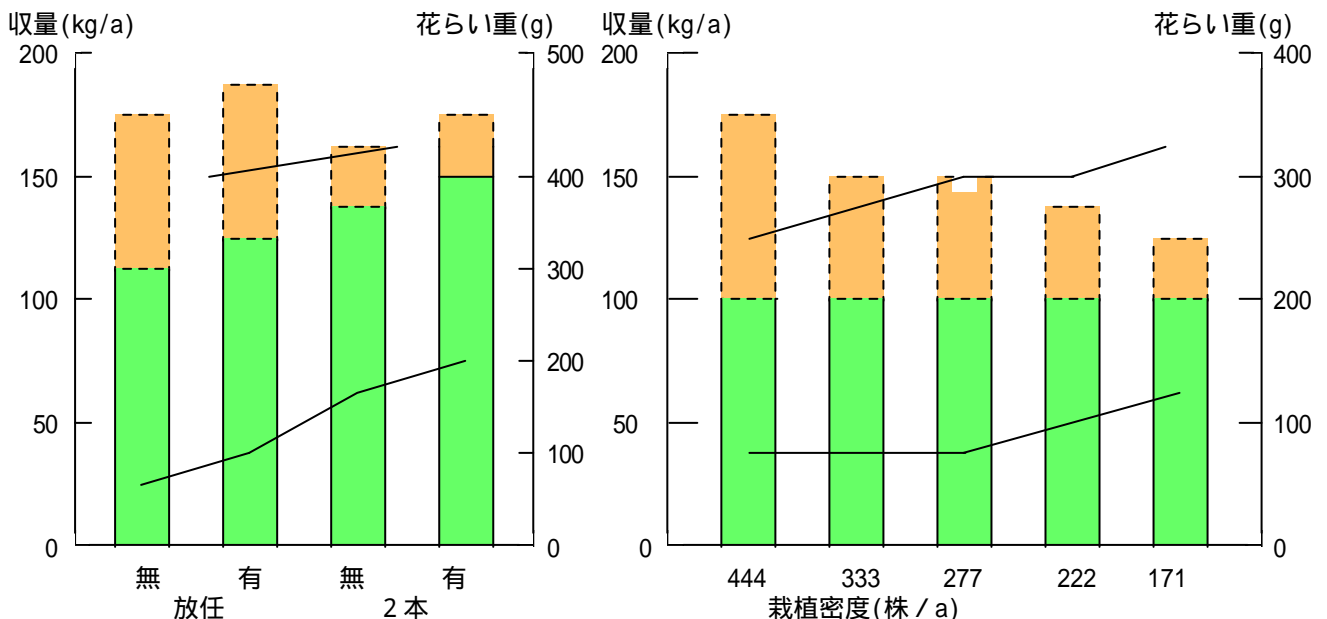


図2 切り返しと収量、花らい重

図3 栽植密度と収量、花らい重